

第10号

奈良
国立博物館
だより

平成6年 7・8・9月



国宝 地獄絵 鎌倉時代 当館蔵
親と子のギャラリー「地獄絵」より

親と子のギャラリー「地獄絵」

7月28日(木)～8月21日(日)

新館南陳列室

特集展示「縁起絵・絵伝」

6月28日(火)～7月24日(日)

新館南陳列室

特集展示「華鬘」

7月28日(木)～8月21日(日)

新館北陳列室

平常展「仏教美術の名品」

7月26日(火)～10月2日(日)

本館

6月28日(火)～8月21日(日)

新館

親と子のギャラリー「地獄絵」

7月28日(木)～8月21日(日) 新館南陳列室

わが国では早くから地獄の絵が描かれてきた。仏教の考え方では、人は生きている間の行いのよい悪いにしたがって、死んだあと六種類の世界のどれかに生まれ変わる。その六つの世界とは、まず天人の住む「天上界」(天道)、次に「人間界」(人道)、戦いに明け暮れる魔神の阿修羅が住む「阿修羅道」、そして人間以外の動物の「畜生道」、いつも腹をすかせて生きねばならない「餓鬼道」、最後に「地獄」である。天人でさえおとろえて死んでいくように、これらの六つの世界(六道)は、どれも苦しみのたえないところである。中でも地獄は、鬼がたくさんいて、そこへ行ったものをあらゆる方法で痛めつけ、永遠に苦しめつけけるという、もっとも恐ろしい所である。生き物は、六道の間を転々と生まれ変わりながら、いつまでも苦しみから逃れられないと考えられている。ここでは、わが国で浄土経の展開とともに多様に描かれた地獄絵を、①「地獄とは何か」、②「地獄におちるまで」、③「地獄の有り様」、④「地獄を見物した人たち」、⑤「地獄から救われた人たち」の小テーマにわけ、優品によってわかりやすく展示する。



●地獄草子 部分 (東京国立博物館)

特集展示「縁起絵・絵伝」 6月28日(火)～7月24日(日) 新館南陳列室

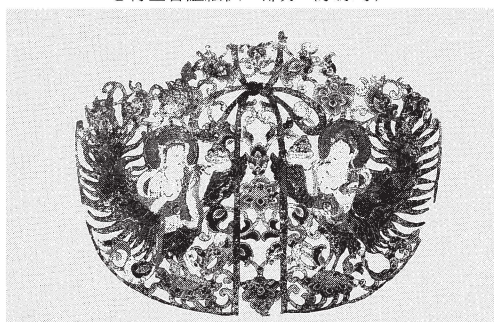
一般に縁起絵や絵伝といわれる絵画は、仏教の教えそのものや寺社の草創・沿革、あるいは仏教史上の偉人などに関する説話を絵に表現して幅広い階層にわかりやすく伝えるもので、わが国では早くから成立している。いわゆるテキスト(縁起や僧伝などの文章)にしたがった絵画であり、その内容によって主人公を異にした様々な表現形態をとるが、時にはこれらが重なりあいながら展開してきた。この特集展示では、そうした縁起絵・絵伝のおもしろさの一端を紹介する。



◎行基菩薩絵伝 部分 (家原寺)

特集展示「華鬘」 7月28日(木)～8月21日(日) 新館北陳列室

仏教では、仏を安置するお堂を厳かに飾るため、様々な道具を用いる。これを「荘厳具」と呼ぶが、華鬘もその荘厳具の一つである。華鬘は、文字通り花を連ねた鬘で、本来はレイのような生花の花輪であったが、やがて恒久性のある材でも作られるようになった。わが国では、皮、金属、木などで作った遺品があるが、いずれも中央に総角(結び紐)を表すのは、花を紐で連ねた本来の形が残ったものである。ここでは、平安時代から鎌倉時代にいたる典型的な作品を選んで展示する。

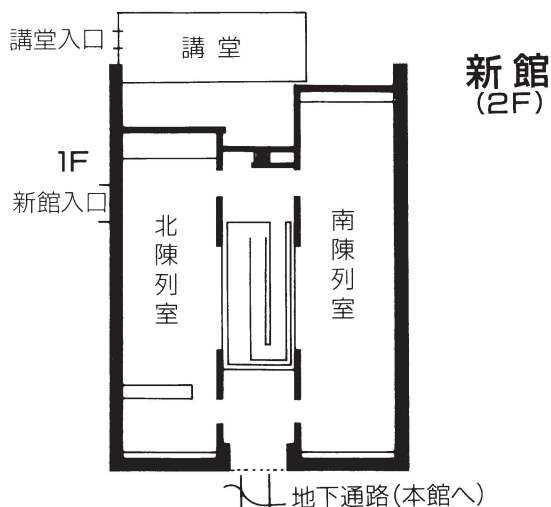
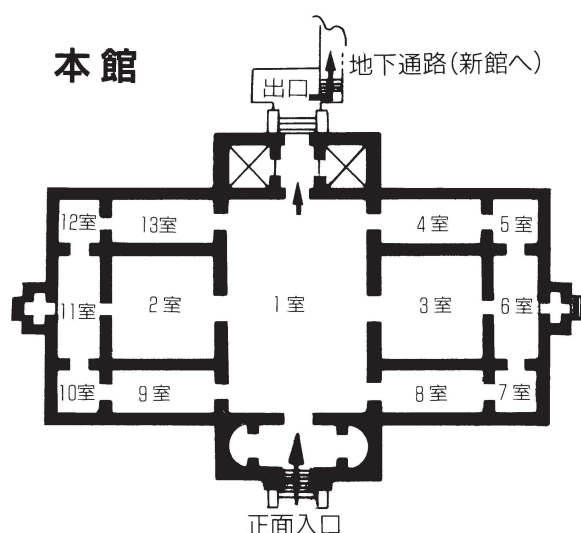


●牛皮華鬘 (当館)

平常展「仏教美術の名品」 7月26日(火)～10月2日(日) 本館

6月28日(火)～8月21日(日) 新館

当館で収蔵・保管する館蔵品・寄託品の中から、国宝・重要文化財を含む多数の仏教関係の優品を展示し、仏教が伝来した飛鳥時代から連綿と続く多彩な美術を紹介する。本館は、各種の仏像の時代別展示と、寺院出土の遺物や瓦などを展示。新館は、仏像・仏画を大乘仏教、密教など種類主題別に展示するほか、経典や仏教関係の文書・書跡、仏堂の装飾や、仏の供養に用いるための様々な仏具を展示する。



(ミュージアムショップは1階東側、ハイビジョンギャラリーは入口西側にあります)

主な展示品

本館		新館					
彫刻	考古	彫刻	絵画	書跡	工芸		
7月4日(月)～7月25日(月) 展示替のため休館		7月1日(金)～8月21日(日) (7月25日(月)～7月27日(水)は、展示替のため休館となります) 南陳列室(〔北〕とあるものののみ、北陳列室)		6月28日(火)～7月24日(日) 北陳列室			
7月26日(火)～10月2日(日) 1・2・9～13室		7月26日(火)～10月2日(日)		5月28日(土)～7月24日(日) 北陳列室			
<p>【飛鳥時代】◎銅造誕生釈迦仏像(正眼寺)、◎銅造弥勒菩薩半跏像(神野寺)、◎銅造観音菩薩立像(法起寺)</p> <p>【白鳳時代】◎木造菩薩立像(金竜寺)、◎銅造誕生釈迦仏像(悟真寺)、◎銅板法華説相図(長谷寺)</p> <p>【奈良時代】●乾漆十大弟子立像のうち舍利弗及び目犍連像(興福寺)、●乾漆八部衆立像のうち緊那羅像(興福寺)、◎銅造薬師如来坐像(当館)、◎乾漆金剛力士立像(当館)、●木心乾漆義淵僧正坐像(岡寺)、◎伎楽面(東大寺)</p> 		<p>〔4室〕◎田原本町出土埴輪(田原本町)、伝茨城県東海村出土埴輪、桜井市珠城山1号墳出土品(当館)、〔5室〕星塚古墳出土品(当館)、〔6室〕百済出土古瓦、高句麗出土古瓦(当館)、飛鳥時代の古瓦のうち向原寺出土古瓦(檀原考古学研究所)他、白鳳時代の古瓦のうち山村廃寺出土古瓦(当館)【写真】、川原寺出土古瓦(奈良国立文化財研究所)、法隆寺出土古瓦(法隆寺)他、奈良時代の古瓦のうち興福寺出土古瓦(当館)、平城宮跡出土古瓦(当館)、東大寺出土古瓦他、〔3室〕◎鳳凰埴(南法華寺)、橘寺出土火頭形三尊埴仏(当館)、川原寺裏山出土方形三尊埴仏(明日香村)、南法華寺出土方形三尊埴仏(南法華寺)、石光寺出土埴仏(石光寺)、多宝塔埴仏、川原寺裏山出土緑釉埴(明日香村)、雪野寺出土塑像断片、斎尾廃寺出土塑像断片(当館)、本薬師寺出土塑像頭部(薬師寺)、◎石製九輪(円照寺)、●粟原寺伏鉢(談山神社)、〔6室〕奥山久米寺出土蓮華文鬼瓦(京都国立博物館)、山村廃寺出土蓮華文鬼瓦、◎大安寺出土鬼面文鬼瓦、中山瓦窯出土鬼面文鬼瓦(当館)、〔7室〕◎元興寺五重塔鎮壇具(元興寺)、〔8室〕●東大寺金堂鎮壇具(東大寺)、◎佐井寺僧道薬基誌及び骨壺(当館)、◎山代忌寸真作及び妻基誌(当館)、行基舍利瓶断片(当館)、◎出雲荻杵古基出土品(当館)、◎青磁鉢及び瓦製鉢(正暦寺)ほか</p> 		<p>【如来】●銅造誕生釈迦仏像及び灌仏盤(東大寺)、木造出山釈迦如来立像(当館)、◎木造釈迦如来立像(当館)、銅造釈迦如来立像(光明寺)、◎銅造薬師如来立像(般若寺)【写真】、木造大日如来坐像(元興寺町)、◎木造阿弥陀如来坐像(念仏寺)〔北〕、◎木造阿弥陀如来坐像(安楽寿院)、◎木造阿弥陀三尊像(峰定寺)、◎銅造阿弥陀三尊像(東京国立博物館)、◎木造阿弥陀如来坐像、【菩薩】◎木造弥勒菩薩坐像(薬師寺)、◎木造准胝観音立像(常盤山文庫)、◎木造聖観音立像(本山寺)、◎木造聖観音立像、◎木造竜猛菩薩立像(金剛峯寺)、◎木造明星菩薩立像(弘仁寺)、【明王】銅造不動明王坐像(当館)、木造愛染明王坐像(当館)、銅造軍荼利明王立像(園城寺)、【天】木造十二神将立像(当館)、木造毘沙門天立像(当館)、◎木造増長天立像(称名寺)、◎木造増長天立像(法明寺)、◎木造大黒天立像(興福寺)、木造大黒天立像(西大寺)、◎木造大將軍神像(大將軍八神社)</p> 		<p>6月28日(火)～7月24日(日) 北陳列室</p> <p>特集展示「縁起絵・絵伝」</p> <p>◎東大寺縁起(東大寺)、◎当麻寺縁起絵巻(当麻寺)、◎当麻曼荼羅縁起(当麻寺)、聖徳太子絵伝(大蔵寺)、◎行基菩薩絵伝(家原寺)</p> <p>その他の陳列品</p> <p>◎釈迦三尊像(頼久寺)、釈迦三尊十六羅漢像(東大寺)、◎阿弥陀聖衆来迎図(松尾寺)、◎阿弥陀八大菩薩像(松尾寺)、◎五百羅漢図(大徳寺)、◎当麻曼荼羅(長谷寺)</p> 	
7月25日(月)～7月27日(水) 展示替のため休館		7月28日(木)～8月21日(日) 南陳列室		7月28日(木)～8月21日(日) 北陳列室			
7月28日(木)～8月21日(日) 南陳列室		7月28日(木)～8月21日(日) 北陳列室		7月28日(木)～8月21日(日) 北陳列室			
<p>【平安時代】◎木心乾漆阿閼如来坐像(西大寺)、◎木造十一面観音立像(地福寺)、●木造薬師如来立像(元興寺)、◎木造如意輪観音坐像(当館)【写真】、◎木造千手観音立像(園城寺)、◎木造十一面観音立像(勝林寺)、●木造薬師如来坐像(当館)、◎木造観音菩薩立像(観心寺)、◎木造十一面観音立像(当館)、◎木造十一面観音立像(海住山寺)、◎木造阿弥陀如来坐像(当麻寺)、◎木造不動明王坐像(園城寺)、◎木造金剛力士像(財賀寺)、◎木造十二神将立像(東大寺)、●木造板彫十二神将像(興福寺)、◎木造菩薩立像、◎銅造蔵王権現像(大峯山寺)、◎舞楽面(手向山神社)</p> <p>【鎌倉時代】●木造法相六祖像のうち伝行賀像(興福寺)、◎木造増長天・多聞天立像(当館)、◎木造釈迦如来坐像(東大寺)、◎木造広目天立像(興福寺)、◎木造地藏菩薩立像(長命寺)、◎木造地藏菩薩立像(春覚寺)、◎木造千手観音立像(妙法院)、木造弥勒菩薩立像(林小路町)、◎木造馬頭観音立像(浄瑠璃寺)、木造如意輪観音坐像(当館)、◎行道面(浄土寺)ほか</p>		<p>親と子のギャラリー「地獄絵」</p> <p>◎十界図(奥院)、地藏菩薩像(東京国立博物館)、◎十王図〔陸信忠筆〕(当館)、◎十王図〔陸仲淵筆〕(当館)、◎閻魔王図(長泉寺)、◎地藏十王像(能満院)、◎六道絵のうち地獄図〔等活・黒蠅・衆合・阿鼻〕(聖衆来迎寺)、●地獄草紙(東京国立博物館)、●地獄草紙(当館)、◎北野天神縁起(津田天満神社)、春日権現験記 卷六(春日大社)、◎星光寺縁起 下卷(東京国立博物館)、◎六道絵のうち念仏利益図〔譬喩経・優婆塞戒経〕(聖衆来迎寺)、◎融通念仏縁起 下卷(清凉寺)、◎矢田地蔵縁起(金剛山寺)、◎矢田地蔵縁起 下卷(矢田寺)、矢田地蔵縁起(法融寺)</p>		<p>華手経〔五月一日経〕(当館)、◎増一阿含経〔善光朱印経〕(薬師寺)、◎大般若経〔魚養経〕(薬師寺)、●紺紙金銀交書大般涅槃経〔中尊寺経〕(金剛峯寺)、◎紺紙金字大威徳陀羅尼経卷第十六(乗宝寺)、紺紙金字大智度論 卷第七十四〔神護寺経〕(当館)、◎紺紙金字金光明最勝王経 卷第二〔後宇多天皇宸翰御願経〕(当館)、大般若経 卷第四百二〔源豪一筆経〕(当館)ほか</p>		<p>特集展示「華鬘」</p> <p>●牛皮華鬘(当館)、牛皮華鬘(峰定寺)、牛皮華鬘(当館)、木製菊牡丹文華鬘(当館)、◎木製彩色蓮華繁文華鬘(霊山寺)、●金銅迦陵頻伽文透彫華鬘(中尊寺)、◎金銅尾長鳥文透彫華鬘、金銅尾長鳥文透彫華鬘(文化庁)、◎金銅種子華鬘(兵主大社)、◎金銅蓮華文透彫華鬘(神照寺)、金銅種子華鬘(当館)</p> <p>その他の陳列品</p> <p>刺繍阿弥陀三尊来迎図(中宮寺)、黒漆春日神鹿舍利厨子(当館)、●鉄宝塔(西大寺)、◎銅草花文磬(峰定寺)、黒漆磬架(当館)、◎金銅錫杖頭、金銅錫杖頭(当館)、金銅錫杖頭(施無畏寺)、◎金銅宝相華文透彫華籠(神照寺)、◎紙胎彩色華籠(万徳寺)、竹製華籠(性海寺)、◎銅梵鐘(当館)、銅梵鐘(当館)、銅梵鐘(宝泉寺)、◎鉄釣燈籠(当館)、◎阿弥陀如来鏡像(当館)、蔵王権現鏡像(当館)、◎山王十社懸仏(当館)、聖観音懸仏(当館)ほか</p>	
8月22日(月)～10月7日(金) 施設改修工事のため休館		8月22日(月)～10月7日(金) 施設改修工事のため休館		8月22日(月)～10月7日(金) 施設改修工事のため休館			

●国宝、◎重要文化財。 展示品は都合により一部変更する場合があります。

《いま奈良博は》

奈良国立博物館の課題について

館長 山本 信吉

1、開館百年記念事業

奈良国立博物館は明治28年4月に開館して、明年平成7年4月に開館百年を迎えます。これを記念して、目下当館では、明年4月から5月にかけて特別記念展として“日本仏教美術名宝展”（仮称）を計画中です。この展覧会は明治時代以来、当館に出陳された名宝を中心に我が国仏教美術の代表的文化財をあつめ、それに奈良の地から海外に流出した名品の里帰りを加えて実現する予定です。具体的内容は今秋に発表します。

2、第2新館の建設について

第2新館は、現在の新館の東側に接続して建設されるもので、新館と第2新館とを一体化し、新しい時代に対応できる“開かれた、親しみやすい、学びと憩いのある博物館”づくりを目指したものです。

第2新館は地上2階、地下1階の鉄骨鉄筋コンクリート造りで、規模や外観はおおむね現在の新館と同じです。新館と第2新館は各階とも通路でつながり、1階の接続部分が入館者の新しい入口となります。

第2新館の1階は、講堂と学芸課・仏教美術資料研究センター・管理課などの運営部門が入ります。そして現新館の1階にある講堂は撤去して、新しくハイビジョンギャラリーや各種の映画・ビデオなどによる視聴覚学習室、各種研修室とミュージアムショップ、軽食喫茶コーナーを設けます。

第2新館の2階は、展示室と文化財収蔵庫になります。

第2新館の地下は、文化財の搬入口、荷解場、収蔵庫と写真撮影室、X線等光学調査室、研究等調査室、文化財修理室などが設置され、現新館の地下室も改装されて、展示用資材倉庫などがつくられます。

以上のような第2新館の新設と現新館の改装によって、奈良国立博物館は施設面で次のような改善が行われます。

- (1) 現新館の展示面積が、第2新館と合せて1,077㎡から2,347㎡と約1.6倍に拡大され、正倉院展の異常な混雑が解消されて、ゆっくりと鑑賞できるようになります。
- (2) 展示室が広くなることで、通常展示と企画展示を別に分けて行うことができ、企画展示準備のための休館をなくすことができます。
- (3) 文化財収蔵庫が現新館の792㎡から1,390㎡と約1.7倍となり、老朽化した施設も改善されます。
- (4) 光学調査室などが整備され、文化財に対する調査・研究機能が充実します。
- (5) 講堂が拡充し、現在の定員120名が200名となり、施設も改善されます。これによって、従来の講座などで御迷惑をかけた入場制限が緩和されます。
- (6) 専用のハイビジョン室など視聴覚コーナーができ、鮮明な画面で、文化財の映像を鑑賞できるようになります。
- (7) ミュージアム・ショップが充実し、展覧会のカタログ、あるいは美術史関係の学術書、入門書が入手しやすくなります。また楽しいミュージアム・グッズを販売します。
- (8) 軽食喫茶コーナーができ、素晴らしい美術品を鑑賞されたあと、しゃれたカフェテリアで美味しいコーヒーとケーキを楽しみながら、憩いの一時を過ごすことができるようになります。

以上のような施設の改善の中で、現新館1階の部分は無料入場コーナーとします。

工事は平成5年度から同9年度にかけての5ヶ年計画で、平成10年4月にはオープンする予定です。

なお、工事期間中、正倉院展、春季特別展を始めとして、博物館活動は従来通り行います。

また当館は、本館・新館の地下連絡通路など高齢者などの方々に御不自由をおかけしていることがありますが、その改善についても努力します。

3、奈良国立博物館が考えていること

いま奈良国立博物館は変わりつつあります。第2新館建設に伴う施設の改善は、これからの奈良国立博物館がどのように活動してゆくかという問題と密接な関係があることは申すまでもありません。

国立博物館の活動の基本は我が国の文化財の保存とその公開を行うことで、そのために日頃社寺を始めとする文化財所有者の御協力を得ながら、文化財の調査・研究を行い、その成果を展覧会に、あるいは講座を通じて公表するように努力しています。

しかし、世間の人々からは、国立博物館は気楽に入りにくい。展示が判りにくい。展示品の名称・解説が難しく、一般の人々には不親切だ。などの批判をうけていることも事実です。

このため、奈良国立博物館では“開かれた、親しみやすい博物館”をモットーとして、特別展の充実、特別陳列、特集展示など各種の企画展の増設に努めています。また若い世代の人達に少しでも博物館に親しんでもらうために「親と子の文化財教室」を毎月実施し、夏には「親と子のギャラリー」を開催していることも皆様ご存知のとおりです。博物館は展示を通じて、館の学芸研究員と入館者の方々との交流の場でもあります。毎月行っている展示室での「ギャラリートーク」はそうした考えに基づくもので、皆様の好評を得ています。正倉院展、春季特別展、あるいは夏季講座の機会に行われている学芸研究員を中心とした各種の講座も毎回多数の方々が熱心に参加して頂いています。

また、仏教美術資料研究センターについてもこれまで蒐集した文化財資料の整備を進め、利用しやすい環境づくりを心がけるようにしたいと考えています。

このように当館は“学びと憩いの場”としての博物館づくりに努力していますので、一層の御支援をお願いいたします。

講座 〈親と子のギャラリー〉

8月4日(木) 地獄絵—恐れと救い—

資料管理研究室長 中島 博

午後2時より、講堂で開催。午後1時30分開場、先着120名。聴講無料。

ギャラリートーク

7月13日(水) 仏舎利の荘厳(新館北陳列室)

普及室長 関根 俊一

8月10日(水) 地獄絵(新館南陳列室)

学芸課長 河原 由雄

9月14日(水) 埴輪のはなし(本館4室)

主任研究官 前島 己基

午後2時より、陳列室で開催。入館者は自由に聴講できます。原則的に毎月第2水曜日に開催。

親と子の文化財教室

平成6年度〈奈良時代の歴史と美術—大仏造立のころ—〉主催・当館 後援・奈良県教育委員会

〈年間予定〉7月9日「大仏造立」、8月6日「天平の美人—奈良時代の絵画—」、9月10日「奈良時代の仏像」、10月8日「正倉院の宝物」、11月12日「正倉院の校倉—宝物はどうして伝わったか—」、12月10日「発掘された寺院の宝物—東大寺と国分寺—」、1月14日「お経を写す」

〈対象〉小学5・6年生、中学生および保護者等。児童・生徒のみの参加及び定員に余裕のある場合は高校生の参加も可。

〈定員〉50名(先着順)。

〈時間〉午前10時から12時。

〈場所〉当館講堂・展示室ほか(現地見学もあります)。

〈参加料〉無料(ただし見学科金等が必要な場合があります)。

〈申込方法〉往復はがき(または電話)で、住所・氏名・学校名・学年・電話番号・同伴する保護者等の氏名・実施日とを記入のうえ、〒630 奈良市登大路町50 奈良国立博物館 親と子の文化財教室係 ☎0742-22-7771 までお申し込み下さい。



ハイビジョンギャラリー(新館1階ロビー)

ハイビジョンによる臨場感あふれるクリアな映像と、わかりやすい解説で文化財の紹介をしています。現在、「奈良国立博物館の名品」を、彫刻・絵画・工芸・考古・書跡の各分野で製作を進めており、順次放映してゆく予定です。

八窓庵茶室の公開

〈公開日〉 新館開館中の毎週木曜日(ただし雨天の場合は公開しません。)

〈公開時間〉 午前10時より午後3時まで(入館者は自由に見学して頂けます。新館南側の扉よりお進み下さい。) なお、茶室の使用については、当館管理課までお問い合わせ下さい。

開館時間 午前9時より午後4時30分まで(入館は午後4時まで)

休館日 月曜日(月曜日が祝日または振替休日の場合は開館し、翌火曜日が休館)

観覧料金 (特別展料金で平常展も観覧できます。団体は責任者が引率する20名以上。)

特別展		大人	高・大生	小・中生
	一般	790	450	250
	団体	530	250	130

平常展		大人	高・大生	小・中生
	一般	400	130	70
	団体	200	70	40

毎月第2土曜日は、小・中学生無料(正倉院展・共催展等を除く)。

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月の各1日に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し返信用封筒(80円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館の普及室にお申し込み下さい。

〒630 奈良市登大路町50 電話0742-22-7771 FAX0742-26-7218 テレホンサービス0742-22-3331 奈良国立博物館